

7月のブルーベリー農園

東広島市豊栄町のブルーベリー農園は妻の実家であり、7月はこれまで家族でコツコツとブルーベリー栽培を続けてきた成果が約40日つづく実りの季節をもたらして

くれるのでうれしいが、気ぜわしい季節となる。ブルーベリーの摘みとりは家族だけでは無理なので、安芸の郷にかかわるボランティアグループ、農園の友人知人、そのまた友人知人、職員といった方々が援農においていただくのにぎやかになる。



梅雨が明けて夏雲が暑い夏を象徴し、木々の緑は濃く青さを増す。手前のブルーベリー農園は実りの季節。7月17日（月）



田んぼの稲は青さをまし、どんどん伸びる。畦の草は刈ってもルドベキアの黄色い花は刈らずに残して景色にアクセントがつく。（7月7日）



7月21日から安芸の郷の3事業所の摘み取り研修が

このブルーベリー農園で始まる。車で約70分かけてこの日からブルーベリーの摘みとりスタート。とった実は持ち帰り選別、生食や加工用に回される。



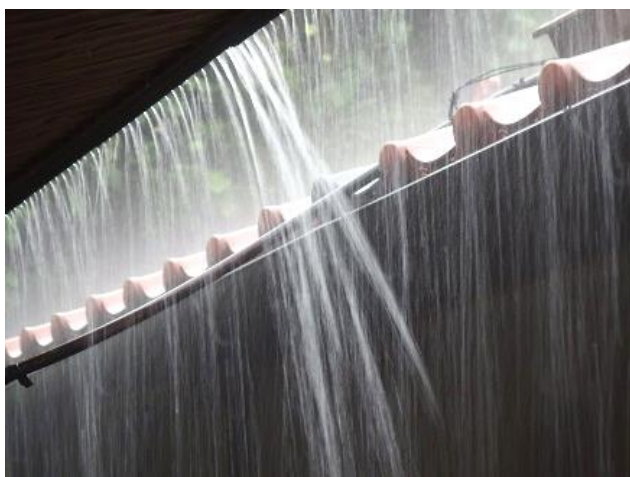
7月24日からはブルーベリー農園の隣の福富町にある障害者の事業所「しゃくなげファーム」からも参加して摘み取り研修が始まる。ベニヤ板に15mmの穴をあけて大きさに迷ったらこれに合わせて点検する工夫が研修らしい。



ブルーベリーの実り具合が本格的になってきたのに合わせて29日、30日の土日からボランティアの皆さんが摘みとり援農において頂く。（7月30日）



炎天下の合間の休憩時間は、みんなで摘んだとれたてのブルーベリーを使った冷たいジュースを飲んだりして会話がはずむ。



29日午後2時ごろの雷雨、雨が激しく降る。



29日の午後の雷雨の合間のブルーベリーの実。

28日も午後から雷雨だった。

8月5日が安芸の郷の第14回森の工房AMAブルーベリーまつりが午後4時半から開催される。そのためブルーベリーの実もたくさんストックしておかないといけないので、収穫後のブルーベリーは安芸の郷のコンテナ型の冷蔵庫に保管される。

摘みとりは9月上旬まで続く。

*お知らせ。安芸の郷のほかに紙屋町の地下街シャレオの本通りそばの「ふれ愛プラザ」で火曜日、金曜日の夕方100gパックを納品しており、おかげさまで好評。



ブルーベリー園の周囲に住むキジも元気そう。(7月29日雨上がりの夕方)



イトトンボ (7月17日)

2017年7月31日
社会福祉法人安芸の郷
理事長 遊川和良